

今日のトピック ブラジルの金融政策は現状維持（2018年5月）

予想外の政策金利据え置き、レアル安を警戒

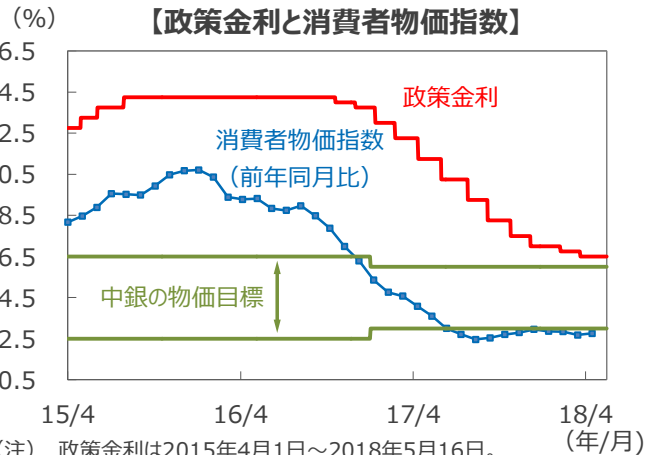
ポイント1 6.50%に据え置き

予想外の金融政策現状維持

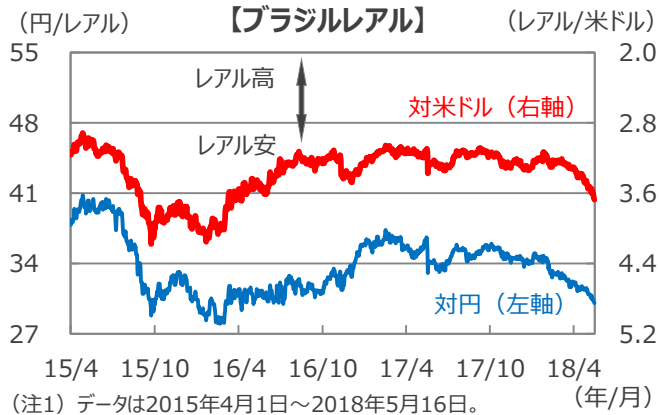
- ブラジル中央銀行（以下、中銀）は、5月16日の金融政策委員会で、政策金利を6.50%で据え置くことを全会一致で決定しました。
- 政策金利据え置きは市場の想定外でした。中銀は、前回の会合で、あと一回の追加利下げを示唆していただけに、多くの市場参加者は利下げを予想していました。

ポイント2 インフレリスクが変化 レアル安を警戒

- 4月の消費者物価が前年同月比+2.76%と物価目標レンジを引き続き下回るなか、中銀は声明文で、足元のインフレ動向は好ましいとしながら、インフレ見通しのリスクバランスが最近変わったことにより、政策金利を据え置いたと説明しました。
- 中銀は、世界景気の見通しがより厳しくなり、金融市場が調整していることで、新興国に対するリスク選好度が低下したと指摘しています。ブラジルの通貨レアルが前回会合以降、対米ドルで10%を超えて下落するなか、通貨安による悪影響を警戒したものとみられます。



(注) 政策金利は2015年4月1日～2018年5月16日。
消費者物価指数は2015年4月～2018年4月。
(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注1) データは2015年4月1日～2018年5月16日。
(注2) (レアル/米ドル) は逆目盛。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 次回も据え置きが見込まれる

- 今回の政策金利据え置きにより、2016年10月に始まった金融緩和サイクルは終了した可能性があります。中銀のガイダンスによれば、次回6月の金融政策委員会でも、政策金利が据え置かれる見通しです。
- 中銀の金融政策現状維持を受け、通貨レアルは16日、対米ドルで約2年ぶりの安値水準となる1ドル＝3.67レアル台で引けました。レアルは当面、上値の重い展開となりそうです。堅調な米国景気を背景に米利上げペースの加速観測から米長期金利が上昇するなかで、新興国からの資本流出圧力がかけやすくなっています。さらに、大統領選挙を今年の10月に控えた政局の不透明感もレアルへの逆風となりそうです。

ここもチェック! 2018年4月20日 ブラジルの経済・市場動向（2018年4月） 2018年3月22日 利下げが続くブラジルの金融政策（2018年3月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。